令和３年度　学校関係者評価

学校自己評価および保護者対象アンケート、生徒対象アンケートに関する学校評議員からのご意見

各部の活動は、コロナ感染が蔓延するなか、取り組みも難しかったと思う。また、生徒アンケートで、学校は楽しく、勉強はよく分かるなど生徒にとって素晴らしい学校であることがわかった。しかし、学校自己評価において項目【児童生徒と接するうえで、いじめや差別のない人間関係の育成に取り組む】に関して「あまりできていない」や、保護者アンケートで「学部間の引継ぎができていない」という意見が多く、課題と思われた。学部間の引継ぎについては、ぜひ改善をお願いしたい。
ジェンダーレス化は、とても良いことである。一方、障害特性に合わせた服装規定の見直しは進んでいるか（既に規定されているか）を知りたい。感覚過敏のために特定の感触や締め付け、帽子、靴下などを嫌がる生徒がいる場合や、手指の巧緻性の苦手さによってボタン操作などが苦手な場合、配慮した服装規定が必要になると思われる。加えて、地域の学校で苦手な服装に慣れさせるような指導がいまだ行われているところもあり、センター的機能として、このような視点を地域の学校にも周知いただくことをお願いしたい。
ICT に関して、生徒向けのマルチメディア DAISY 図書の整備は、進められているのか。近年、デジタル教科書は普及してきているが、教科書ではないマルチメディア DAISY 図書の充実も検討していただきたい。
個別の教育支援計画の作成にあたり、生徒が利用する地域の福祉事業所との情報共有を行ってほしい。本来、学校が個別の教育支援計画を作成する時は利用している事業所から情報収集を行うことになっている。また、福祉事業所も学校から情報を受け取り、支援計画を作成すべきところだが適切に回っていない実態がある。情報共有していくためのシステム作りについても今後の課題として検討をお願いしたい。
今年度もコロナ禍で子どもたちの学習活動に制限が生まれ、大切な行事ができなくなっていることに心が痛む。その中でも、先生方の日々の努力で子どもたちが成長している様子は地域の小中学校へ訪問した時に間接的であるが、話を聞いて嬉しく思う。地元の学校か、特別支援学校か、迷いに迷われて特別支援学校に進学した子どもが「行って良かった」言われていると聞くと誇らしく感じる。アンケートで教員用のＤ評価が１名あることが気になるが、より厳しく自分達の教育活動を見つめている証だと思う。保護者アンケートでは、10 および 14 の内容が次年度の課題になると思われる。全体として厳しい意見を受けた時に迅速な対応をされている様子が伺え、情報公開の風通しの良さも感じた。
コロナ禍での学校運営について、特に総務部の報告で行事について書かれているが、地域の感染状況を鑑み、実施の可否だけでなく、判断の時期も苦労されたことと思う。新しい形を考えることは大変だと思うが、子どもたちのため教職員のみなさんの知恵を持ち寄ってほしい。自己評価アンケートは教員、保護者とも概ね良い評価だと思う。